

たつぷり コース

(約4時間～4時間30分
のモデルコース)

江ノ電 由比ヶ浜駅

▼ 徒歩7分

吉屋信子記念館

※一般公開日についてのお問合せは、
鎌倉生涯学習センターへ (Tel.0467-25-2030)
【所要時間：約30分】

▼ 徒歩5分

鎌倉文学館について

鎌倉文学館では古典、明治から現代まで鎌倉ゆかりの文学者とその作品を紹介しています。小説家の三島由紀夫は小説「春の雪」に登場する別荘のモデルとして書きました。また、庭園には、ゆかりの文学者の歌や俳句が刻まれた外灯碑や記念碑があります。

【ゆかりの文学】

三島由紀夫「春の雪」

【庭園の外灯碑、記念碑】

万葉集巻十四にある鎌倉の歌、源実朝の歌、松尾芭蕉の俳句、正岡子規の歌、夏目漱石の俳句、吉野秀雄の歌、松本たかしの俳句、木下利玄の歌、高浜虚子の俳句、久米正雄の俳句、種蒔く人記念碑

鎌倉文学館

【所要時間：約30～60分】



徒歩5分



甘縄神明神社

【所要時間：約20分】



徒歩5分

吉屋信子記念館について

小説家の吉屋信子は昭和37年から亡くなるまでこの家に暮らししました。現在は鎌倉市へ寄贈され吉屋信子記念館として、見学することが可能です。(※公開日が限られています。)また、小グループの学習施設として利用ができます。(※有料・要予約)

甘縄神明神社について

甘縄神明神社は鎌倉でいちばん古い神社といわれています。近くには小説家の川端康成や山口瞳が住みました。小説「山の音」は鎌倉の谷で響く山の音が書かれています。

【ゆかりの文学】

万葉集歌碑、古典「吾妻鏡」、
川端康成「山の音」

【近くに暮らした文学者】

川端康成、山口瞳

高德院について

中世に書かれた「東関紀行」に、造営中の木造の大仏を仰いで感動したという記述があります。歌人の与謝野晶子は明治37年、雑誌「明星」に鎌倉の大仏を“美男”と詠んだ歌を発表し、当時の人々を驚かせました。高德院の境内には晶子自筆の歌碑のほか4基の文学碑があります。

【ゆかりの文学】

古典文学「東関紀行」、与謝野晶子歌碑、星野立子句碑、金子薫園歌碑、飯室謙斉句碑、吉屋信子歌碑

高德院(大仏)

【所要時間：約30分】



徒歩 12分



長谷寺

【所要時間：約60分】



徒歩 12分



星ノ井について

星ノ井は鎌倉十井の一つで「星月夜ノ井」「星月ノ井」ともいわれています。昔、このあたりは木々がうっそうと茂り、この井戸には昼間でも星影が見えていました。しかし、あるとき近くに住む女が誤って包丁を落とした後は、星影が消えたという伝説があります。また、小説家の広津柳浪、和郎親子がこの近くに暮らしました。

【ゆかりの文学】

広津和郎「静かな春」

星ノ井

【所要時間：約10分】



徒歩 5分



御霊神社

【所要時間：約10分】



徒歩 10分

江ノ電 長谷駅

長谷寺について

長谷寺には高山樗牛や久米正雄の碑があります。また、高濱虚子の句「永き日のわれらが為めの観世音」という句が刻まれた観音像があります。

【ゆかりの文学】

高山樗牛記念碑、高浜虚子句碑、久米正雄胸像

御霊神社について

御霊神社は、豪勇の武将といわれた鎌倉権五郎こと、鎌倉景政を祀っており、鎌倉幕府の記録書「吾妻鏡」にしばしば記載があります。明治35年、小説家、詩人の国木田独歩が境内に住みました。

【ゆかりの文学】

古典「吾妻鏡」

【近くに暮らした文学者】

国木田独歩